

# 学習成果としての児童生徒の変容

## 結果と考察

これまでの取組を通して、学習成果としての変容した姿が、学校全体の児童生徒にどの程度見られるようになってきたか。(質問15)

### 情報収集力、活用力、コミュニケーション力に向上が見られる

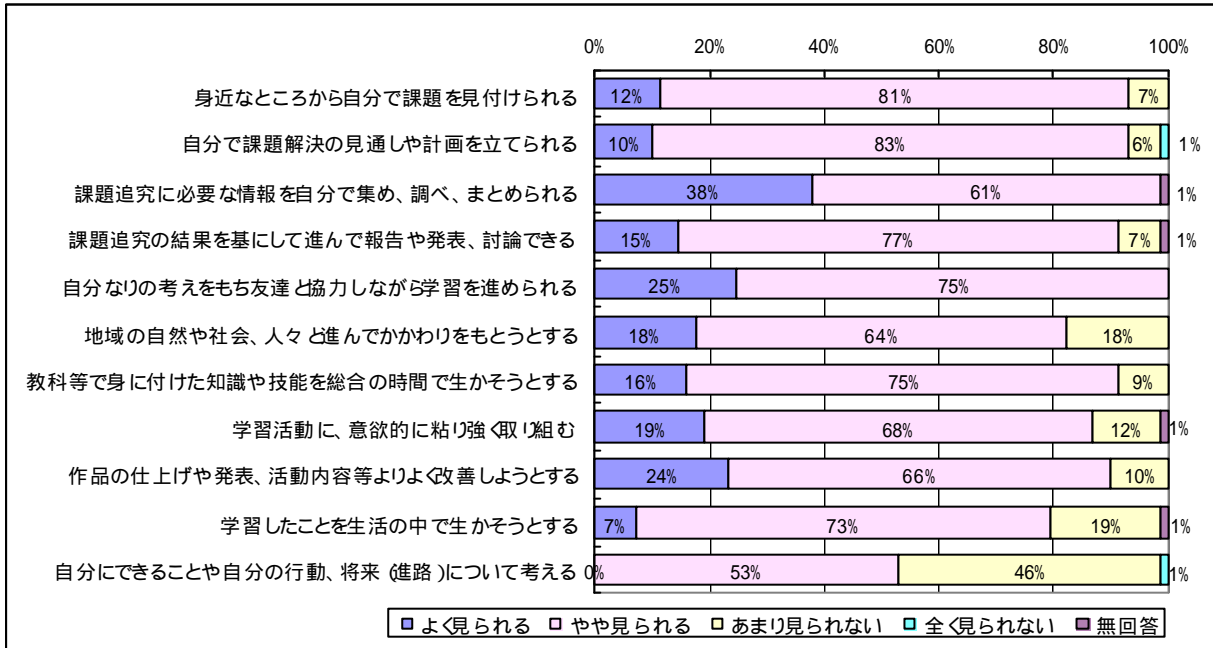


図16 学習成果としての児童の変容した姿 (小学校)

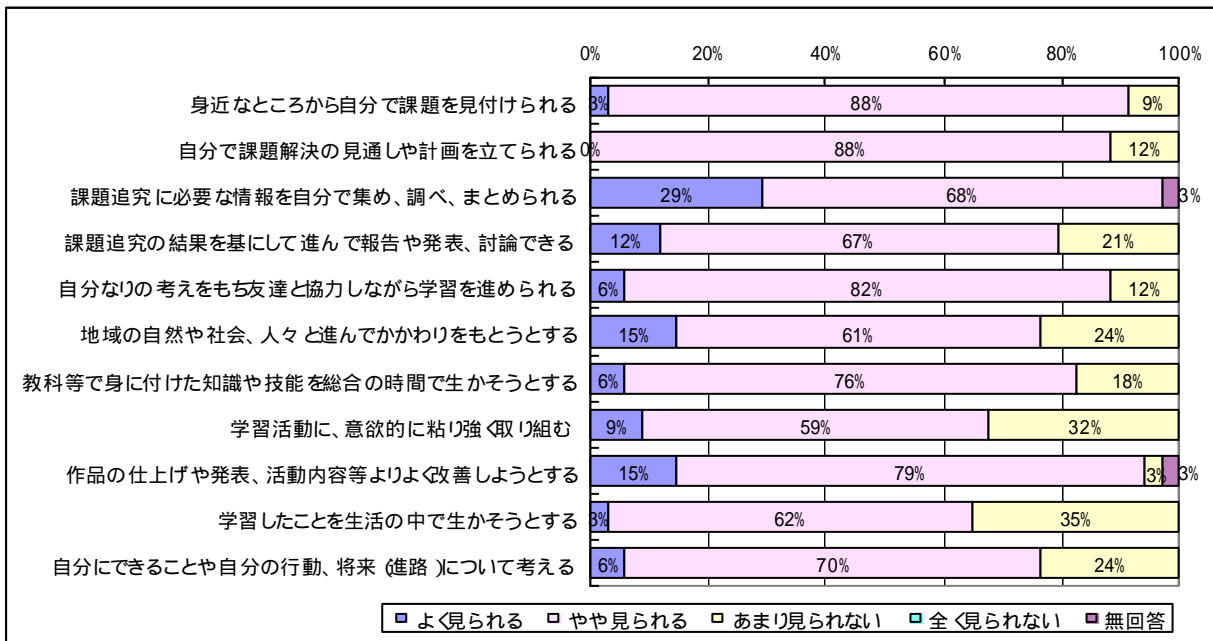


図17 学習成果としての生徒の変容した姿 (中学校)

### (1) 小学生に見られる変容 (図16)

「よく見られる」と回答した学校が多い項目を挙げると、

- 情報を自分で集め、調べ、まとめられる (38%)
- 自分の考えをもち、友達と協力して学習を進められる (25%)
- 作品、発表、活動内容をよりよく改善しようとする (24%)
- 学習活動に意欲的に粘り強く取り組む (19%)
- 地域の自然や社会、人々と進んでかかわりをもとうとする (18%)

等である。これは、時間的なゆとりが保障された中で、コンピュータの活用や地域での調査、見学などの調べ学習、グループ学習、発表会等が、多く取り入れられてきたためと思われる。

一方、「あまり見られない」「全く見られない」を含む)との回答が多い項目は、

- 自分にできることや自分の行動、将来について考える (47%)
- 学習したことを生活の中で生かそうとする (19%)

等である。また、「地域の自然や社会、人々と進んでかかわりをもとうとする」姿でも18%の学校が回答している。こうした資質や能力、態度は、身に付いて表面化するまでに時間を要するため、学習の成果や児童生徒の変容の見取りが難しかったものと思われる。

### (2) 中学生に見られる変容 (図17)

全項目中、「よく見られる」との回答が多いのは、小学校と同様に、

- 情報を自分で集め、調べ、まとめられる (29%)
- 作品、発表、活動内容をよりよく改善しようとする (15%)
- 地域の自然や社会、人々と進んでかかわりをもとうとする (15%)

等である。これらに対し、「あまり見られない」との回答が多い項目は、

- 学習したことを生活の中で生かそうとする (35%)
- 学習活動に意欲的に粘り強く取り組む (32%)
- 自分にできることや自分の行動、将来について考える (24%)
- 地域の自然や社会、人々と進んでかかわりをもとうとする (24%)

等である。特に、「地域の自然や社会、人々とのかかわり」に関しては、学校間で成果のあらわれに差が見られる。中学校でも、学習したことがすぐに実生活に生かされていない様子や「自己の生き方」を考える態度に結び付いていない様子が見られる。また、小学校に比べて学習意欲があまり見られないのは、発達段階における年齢的な特徴のあらわれとも考えられるが、小・中学校間での活動内容の重複や学習内容に対する興味、関心の度合いにも関係していると思われる。

### (3) 全体的な傾向

全体的には、小・中学校とも各項目で「やや見られる」との回答が多い。これは、先に見たように、「評価規準」がまだ作成されていない学校が、小学校で約4割、中学校で約6割見られることにも関連していると考えられる。評価規準が設定されていなければ、評価の基準や判断があいまいとなり、「やや見られる」との回答が多かったものと思われる。

## ● 課題

「身に付けたことを学習や生活の中で生かす態度」や「自己の生き方考える態度」の育成を一層重視する。

個に応じた指導と的確な評価が行えるように、評価規準を踏まえて、**評価の判断基準**を明らかにする。